

# 芦安ファンクラブ通信

第20号  
寒中号

NPO法人  
芦安ファンクラブ  
南アルプス市芦安  
芦舎 1589-8  
事務局：(大徳)  
055-288-2531

## 南アルプス 登山／観光のあり方

NPO法人 芦安ファンクラブ  
会長 花岡利幸

一、はじめに  
新年あけましておめでとうございます。

昨年は天災・人災の本当に多い年でした。地方都市が健全であることがこれからの私たちの生活にとって何よりも重要だとの思いを再認識させられました。

私たちの活動は、南アルプスの魅力に引きつけられて集まった人々が、自発的に、この最適な自然環境を守り育てていこうとする活動です。これに参加することが楽しく、そして充実した生活につながり、地域の活性化に結びつき、皆の生き甲斐になっていく雰囲気がこの集団組織にはあるような気がします。それも南アルプスと親しむことが基本にあります。次の一文をあげて、新年のごあいさつとします。

### 二、この一文の主旨

一般に観光客の受け入れ施設を経営する個人企業サイドから見れば交通を便利にしてもっと観光客を呼び込みたい心理に駆られます。

一方、観光資源から見た観光地全体の観光施設容量と交通容量のバランスを考えれば、交通を便利にすることは得策ではないことも理解できます。そういう個人レベルと全体レベルの衝突があります。このとき交通路をどの程度整備して便利にするのが、観光地への入り込みをコントロールすることになり、観光地のあり方を決めます。その点で南アルプススノーパードのマイカー規制はそのよい事例です。この例から観光地づくりの原理を読み取っていただきたいと思えます。

### 三、マイカー規制の経過

一昨年(二〇〇三年)、南アルプススノーパード林道が岩石崩落で通行止めになり、二十数カ所の危険箇所を改修を行って、一年九ヶ月ぶりに、昨年のシーズン開通に合いました。安全の見地から県と南アルプス市は全シーズンマイカー規制を実施し、公共交通輸送(定期バス及びタクシー)に切り替えました。

乗用車の便利さに比べれば、乗り換え、(登山用リュックザックなど)の荷物の積み卸し、待ち時間、交通運輸に合わせた行動規制、運賃支払いなど利用者にとっては抵抗要因が大きかったにもかかわらず、大きなトラブルもなく、公共交通機関への転換はスムーズに行きました。



厳冬期の北岳、間ノ岳 (観音岳より)

シーズンが終わって、入山者数を見ると、乗用車を入れていた例年と比べて、多少の落ち込みはあったものの、他のメリットも確認されて、地元関係者はひと安心しました。

### 四、マイカー規制の感想

マイカー規制政策を行ってその関連での私の感想は次のようです。

①この交通政策転換は交通安全の理由から、利用者にも、地元の観光業者にもほとんど抵抗なく受け入れられました。背後に世論の環境保護、保全の考え方の潮流があり、マイカー規制を後押ししたものと私は考えています。最近の登山者は、比較的に自然の大切さを自覚しており、がむしやりに便利や自己満足欲求を追究するだけでなく、山のマナーを守るようになってきているように思います。高山を楽しむ登山客／観光客の質が向上したら、安全理由からとはいえ、マイカー規制がこんなにスムーズに行ったかどうか？

②スノーパード林道の再開対応策として山梨県と南アルプス市は時代の空気を的確に読み取って、迅速に対応、決断し、実行しました。これがマイカー規制を成功させた大きな要因であると思えます。

③乗用車のいない山岳観光道路を定期バスでゆったりと、気ぜわしくなく行く気分は乗客にとって楽しい移動時間です。

④サービス提供の営業側から見れば、入山者の数は多少減ったけれど、利用者はゆとりを持った行動ができます。それは山岳地域における登山者と観光者の使い方のけじめや棲み分けを明確にしたと見ることが出来ます。これはまた、マイカー規制によって、今まで素通りしていた裾野の集落にターミナル機能が付加されることによ

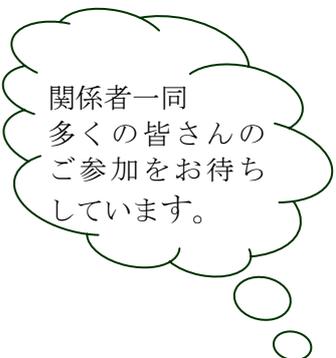
つて、山岳観光基地としての発展の可能性が出てきたことを感じさせます。  
 ⑤公共交通のサービスの仕方は観光地形成に大きな影響を及ぼします。乗用車による芦安への集合の後のパーク&バスライドのために駐車整備し、甲府ー広河原間の二時間を一気に結ぶことによる倦怠感、疲労感、運賃高感の軽減策として、バスルートを甲府ー芦安、芦安ー広河原の二つに分けて、芦安をターミナルとしてそこを観光基地として環境整備するのがよいやり方です。それによって登山者や観光者は芦安に必ず降り立つ（停車ではなく、バス&バス、またはパーク&ライドで必ず乗り換える）ことによって、そこが山岳観光基地になる。一昨年、芦安では南アルプス山岳館が整備され、NPO法人（芦安ファンクラブ）が主催する登山教室を中心としたまちづくりが進みつつあります。

⑥また、国の建設行政が行う南アルプスの治山治水事業を見て最近感ずることは、周りの自然に気をつけながら自然を守りながら事業を行う発想が窺われ、普段目に止まらないところで、の仕事だけに、改めて関係者のご努力を讃えて、それを広く皆さんに報告したいとおもいます。それらを含めて、これらは南アルプス全体の自然を官民一体で守ることによってまちづくりができることを示しています。環境保全がまちづくりになる。これが地方都市におけるまちづくりの一つの潮流であります。

⑦今度のマイカー規制の実施は、南アルプス市や山梨県が乗り換え地点における駐車場整備、警備員による交通

誘導によって行われたものです。しかし、国立公園の利用と運営に対して、これを地元市町村だけで行うのは限度があり、国がもっとイニシアティブをとる必要があると思います。国の管理行政は傍観者的に地元のやったことを評価するばかりでなく、キチツとした支援が必要であると思います。  
 ⑧その他、今回利用者に不評を買ったのは、広河原での待ち合わせの混雑への対応の悪さ、甲府ー広河原までの立ち席のままの客を乗車させるなどのサービスの不満でした。交通運輸にかかわる濃やかなサービス体制が今後に期待されます。

五、NPO芦安ファンクラブの役割  
 マイカー規制施策は南アルプス市芦安地区の地区振興計画（コミュニティプラン）と関係し、住民参加によるまちづくりにつながる必要があります。これにNPOが積極的に関わる必要だと思えます。そのためにも芦安地区の住民の皆さん一人でも多くの方々がNPO芦安ファンクラブの活動へ参加して頂き、まちづくりの実践の一役を担うことができればよいと思えます。



**第六回ライチョウ会議**

**山梨大会が開催されます**

約二百万年前人類を誕生させた地球は、それから少なくとも四回の氷河期を迎え人類や動植物達に厳しい試験を与えました。この時期、日本列島付近の海面が下がり、北方からマンモスやライチョウ、キタダケソウ等が南下してきました。その後、地球が暖かくなるにしたがってそれらの動植物達は北へ、あるいは高山へと自分たちの生育環境に合った場所へ移動して、いろいろな工夫を凝らし環境の変化に耐え、順応しながら今日まで生き続けてきました。

このような中で日本のライチョウは近代登山の黎明期には捕らえられ食べられてしまったこともありましたが、国は一九三七（昭和一二）年天然記念物に、さらに一九五五（昭和三十）年特別天然記念物に指定して手厚く保護に乗り出しました。しかし近年、南アルプス北岳周辺のライチョウの減少が登山者によって指摘され、信州大学の中村浩志教授らの調査により、その減少が明らかになりました。そこでライチョウ会議（中村浩志会長）と南アルプス市では今年八月二十、二十一日に研究者をはじめ行政や山岳関係者それに市民が連携して、世界の南限といわれ、高山環境の指標といわれる南アルプスのライチョウを守ろうと「第六回ライチョウ会議山梨大会」を南アルプス芦安交流センター「ふれあい館」で開催することになりました。

この会議では、専門家や研究者がライチョウの生活や習性について分か

り易く解説し、さらに世界や全国のライチョウについて最新の調査研究報告がなされます。  
 小学生から大人まで世代を超えてライチョウに関する学習ができるもりたくさんの内容となっております。



この大会での山梨の取り組みは、日本野鳥の会甲府支部が中心となり、山梨県山岳連盟や山梨山の会等の山岳関係団体それに各種自然保護団体が協賛します。私共NPO法人「芦安ファンクラブ」では、開催地元として、夜叉神観光協会、北岳ゆめクラブ、甘利山クラブと共に協賛団体として、会場の設営、PR、参加者の接待、交流会等運営面で全面的に協力して大会を成功に導きます。

**大会事務局** 南アルプス芦安山岳館  
 TEL 055・288・2125  
 FAX 055・288・2162

# 「始めての冬山経験 檜形山」北岳ゆめ倶楽部

檜形山から帰るなり、激しい睡魔に襲われ、ザックを放り出して寝てしまった。疲れた。一月三日にゆめ倶楽部で夜叉神峠へ初日登山をして以来だから、今日、二月五日は暫くぶりの山行だったが、この疲れは久しぶりに体を動かしたからのものではない。

通常ならなんのことはないと思っ  
ている檜形山。北尾根登山道入口から見  
晴し台、さらにアヤメ平までせいぜい  
二時間三〇分程度。なんのことはない  
と思っっている登山道がいまや雪の下と  
なると話は変わり、まだかまだかと、  
はるかな登山道の果てに目を凝らして  
も、雪の登山道は延々と続いている。  
いつもと違う檜形山。いつもと違う体  
力の使い方。

ゆめ倶楽部のメンバーに加え、顧問  
の宮下さん、芦安ファンクラブの清水  
准一さんに雪山登山の指南役兼ラッセル  
要員で参加していただいた。お二人  
がいらっしやらなかつたら、途中であ  
きらめていたかも知れない。

登り始めが午前七時一五分。見晴し  
台まで約一時間。針葉樹林の中は積雪  
が少なく、話が弾む。途中から装着し  
たアイゼンがガッチリ雪を捉えている。  
ところが、後に続く者の息づかいが  
聞こえ始めたのは、東屋を過ぎたあたり  
から。雪の量が前にも増して多い。  
先頭を行くラッセル隊が踏み後を固め  
ながら、奮闘している。

東屋で休憩を取った後、ワカンシキ  
をつけるように促されてラッセル隊が  
編成された。ラッセル隊は、ワカンシ

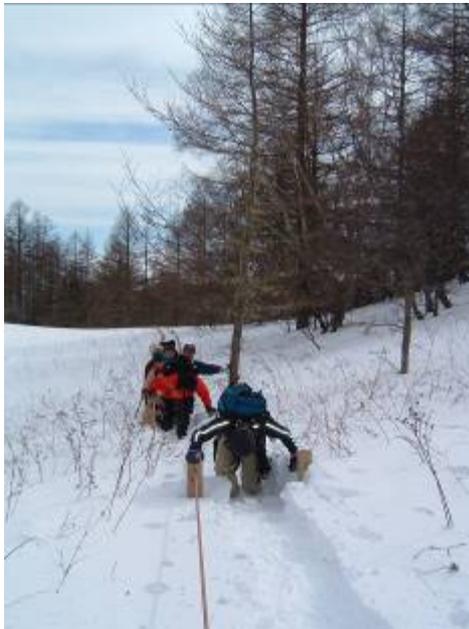
キの宮下さん、清水さん、健康増進課  
の岩間さん、スノーシューが商工観課  
の鈴木さんの四名。ワカンシキの履き  
方は、わらじの履き方と同じと教えら  
れたが、なるほど理にかなっている  
と先人たちの知恵に感心してしまった。  
ワカンシキでの歩き方、トップの後に  
続く者の歩き方など、指南役から説明  
があったあと、私たちはカンシキ隊の  
後に続いて歩き始めた。

トップは、始めは岩間さん、雪が深  
くなるに従い、清水さんと宮下さんが  
交代で進む。すでに清水さんは半袖に  
なって、頭に巻いたタオルの汗を絞っ  
ている。一シーズンに幾度も北岳に立  
つ宮下さんが「えらいなあ」と言う。

ラッセル隊が固めた踏み跡でも、ズ  
シンと沈む。「確かこの辺は階段があっ  
たところ」と思っていると、木道にア  
イゼンの歯がとられてつまずきそうに  
なる。出っ張ったアイゼンの歯がスパ  
ッツの内側に引っかかり転びそうにな  
ったり、スパッツにかき裂を作ってし  
まった。「しまったー」。指南役から、  
アイゼンをつけた時の歩き方も教わっ  
ていたが、思うようにいかない。ラッ  
セル隊の岩間さんが、「まるで筋トシを  
しているようだ」と話している。ラッ  
セル隊に感謝である。

旧檜形町の職員ならば、アヤメ祭り  
やその準備で毎年何度か登っているか  
ら、なじみの景色である。勝手が違っ  
るところと言えば、今が冬山であること  
葉を落とした樹間から富士山が絶えず  
見え隠れしていること、夏山では見る

このできないはるか甲府盆地や富士  
川の流れ、見覚えのある建物までも眼  
下に見えること、いつもと違う檜形山  
の景色に感動する。冬の檜形山の景色  
をみんなに見せてあげたいと思う。  
真つ青な快晴だった空に、雲が増え  
始めている。葉を落とした樹間に見え  
るはずの白根三山、甘利山から千頭皇  
山、大ナジカ峠を経て辻山、薬師岳の  
光景が頭の中に広がる。早くアヤメ平  
につかなければ。心ははやる。



アヤメ平近くになると薬師岳が見え  
ている。昨シーズンの宿泊登山で、鳳  
凰三山を目指したことがなつかしい。  
こちらから見る、大ナジカ峠の標高差  
に驚き、今年こそは大ナジカ峠を経て  
鳳凰三山に行ってみたいと思う。  
平坦なアヤメ平に入ってから、ラ  
ッセル隊は天下とばかり悠々と歩を進  
め、先について避難小屋を開けてくれ  
ていた。そうこう、もがきながらもや  
っとアヤメ平の非難小屋に到  
着する。

午後〇時三〇分。やっと到着  
だ。見晴し台を出発したのが、  
午前九時一五分だから三時間  
一五分かかっている。

本日の山行はアヤメ平が終点。  
もはや裸山まで行く体力と気  
力とそれに時間が残されてい  
ない。裸山の積雪はもっと多  
いはずである。樹間越しに見  
える白根三山は次回山行の楽  
しみとした。  
小屋に入るとみるみる冷えて  
きた。靴紐が凍っている。

祝杯をあげ、豚汁をすすりながらこの  
山行の話に盛りあがった。小池助役も  
青木支所長も斉藤課長も、まさに老い  
も若きも、上司も部下も日頃の壁が取  
り払われ、ここまで登りつめて来た達  
成感と連帯感で、結ばれる。至福のひ  
ととき。

一時間程で下山に向かう。総勢十一  
名の登りのトリスがすっかりついて  
いるので、下山の早いことといったら  
わずか二時間で北尾根登山道入口につ  
いてしまった。ラッセル隊の皆さんお  
疲れ様。いい一日でした。 <杉山 記>

気持ち焦れども、なかなか思うよ  
うに前に進まない。特にアヤメ平に近  
づくほど雪は深さを増していった。鈴  
木さんがストックで雪の深さを計り七  
十五センチと言っていた。アヤメ平を  
目の前にして、雪上に登山道の杭とロ  
ープが見えながら、一足踏み出すこと  
に雪に埋もれ、いったい、いつになっ  
たら着けるのか時間だけが過ぎていく  
ように感じた。雪と悪戦苦闘する様が  
自分でもおかしくて、多分みんながそ  
う思ったのだろう、笑いの渦が広がっ  
た。

## 「ラッセル」に、ひとり言

「冬山用語」の代表的な言葉に「ラッセル」がある。ラッセル車のように勇ましく、雪煙を巻き上げて突き進む迫力のある姿が思い浮かぶ。しかし実際の「ラッセル」は汗だく、雪まみれになってただひたすらトレース（足跡）を付けて行く。その光景は、体力と気力を試される苦行に近い。雪山入山者は少なからずこの「ラッセル」に挑み、雪山の厳しさを味わうことになる。

私の貧粗な山行の中ですら忘れられない「ラッセル」は幾つか思い出せる。豪雪の谷川岳や遠見尾根。阿弥陀の北西稜へ続く南沢左支。二月の栗沢山への戸台からのラッセル。ほとんどもが少数または単独だった為、精魂尽き果て、敗退もあつた。

「かいじ国体」翌年の千頭星山への雪中行軍も苦い思い出として仲間と一杯話になっている。平場で膝までの雪は斜面がきつくなると腰まで被り、腰までであると、首まで潜る。ハイマツやブッシュの上は最悪で、ほとんど泳ぐ格好になる。このような状態を助けてくれる「グッツ」が、古くから使われている「ワカン」であり、最近では「スノーシュー」もある。接雪面積を広げることによって驚くほど歩きやすくなる。

四メートルもある巨大ワカンが  
芦安山岳館のシンボルモニュメント

になっている。  
深雪をものともせず、真っ白い稜線に率先して足跡を踏み出し、後続のために歩きやすいトレース作りを目差す「ヘラルド達」の象徴にも思える。  
我会の御神体に思える時がある。

清水（准）記

# 第12回 南アルプス・芦安

参加者募集中

# 登山教室

甲府盆地の西の端に大きくそびえる南アルプス、その登山基地、山梨県南アルプス市芦安で活動している「NPO 芦安ファンクラブ」(代表 花岡利幸山梨大学教授)は、春と秋の年2回、初心者のための登山教室を開催しています。登山教室では、実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術、地形や地質、動植物など登山に必要な知識を深めたり、山の天気や地図の読み方を学んでいます。

今回の登山教室は、昭和30年ごろまで村民の生活道として使われていた里山の登山道を先人たちの生活に思いを馳せ、楽しみながら歩いていただこうと予定しています。

参加者は1人でもグループでも、また研修のみの方でも受付けています。おおいにご参加ください。

みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう。

日時 / 2005年5月28日(土) 午後~5月29日(日)

会場 / 研修 南アルプス芦安山岳館 055(288)2125

宿泊 ペンション『ジョグ』 055(288)2126

ペンション『北地蔵』 055(280)6027

研修山名 / 夜叉神峠(1790m) - 高谷山(1842m) - カンバ平(1680m)

このカンバ平コースは当クラブが整備したもので、尾根上の展望処から眺める白根三山は残雪が眩しく、周囲の新緑と青い空の中にくっきりと浮かび上がって見えるでしょう。北は甲斐駒ヶ岳から、白根三山を正面に、南は策ヶ岳までのパノラマを歩きながら楽しめます。

また、この季節、この登山道沿いにはつやつやと光沢のある手鏡のような葉を持つ「ヤマイワカガミ」が白い可憐な花をつけ、私たちを迎えてくれます。

参加条件 / 健康で登山が可能な方(登山のみの参加は受付けていません)

参加費 / ￥19,000/1人(宿泊費、食費、研修費、移動費、保険料を含む)

※予約金は不要ですが最終〆切以後の欠席はキャンセル料￥5,000をいただきます。

￥2,000/1人(研修会のみ参加)

◇ 定員 / 50名(先着順)

最終〆切 / 平成 17年 5月 20日(金)

申し込み方法 / 電話またはFAX、官製はがきのいずれかで。

下記のことを明示してお申し込みください。

住所、氏名、年齢、電話番号 登山経験のある方は「登った山の事など」健康状態や気になる事

申し込み・問い合わせ先

芦安山岳館 山梨県南アルプス市芦安芦倉 1,570 番地 Tel 055(288)2125 Fax 055(288)2162

芦安ファンクラブHP URL : <http://www.eps4.comlink.ne.jp/~kousetsu/>

主催 / NPO 芦安ファンクラブ 協賛 / 南アルプス芦安山岳館

後援 / 山梨県山岳連盟 NPO 日本高山植物保護協会(JAFPA)

## ☆研修スケジュール

1日目 5月28日(土) 受付 12:30~13:00

開会セレモニー 13:00~14:30 開会式アンデス地方の民族音楽の演奏♪『グループ・パホ』

研修 14:30~16:30 内容 「地図とわたしたち」

講師 国土交通省 国土地理院関東地方測量部 筒井 俊洋

移動 (研修終了後夕食まで入浴等の自由時間)

夕食 19:00~20:30 早寝、早起きは山歩きの基本です。翌日に備えてゆっくり休みましょう

2日目 5月29日(日)

朝食 6:00~ 登山研修 7:00~15:30

芦安山岳館出発(マイクロバスにて)(7:00) → 夜叉神峠登山口出発(7:30) → 夜叉神峠(1,790m) 白根三山のパノラマを見ながら休憩(9:00~9:15) → 高谷山(1842m)(10:00) → 中池(11:30) → カンバ平(1680m) 南ア北部の全容を楽しみながら地図による現在地や 周囲の確認等、登山の基本を実体験します(11:00~11:30) → 中池(12:00~13:00) 広場で昼食・喫茶サービス(コーヒー・紅茶) → 桧尾峠(13:30) → 大骨山 → 三段返し → 大骨山登山口(15:00) → 芦安山岳館着(15:30)

※ 夜叉神登山口から芦安山岳館までは全て徒歩の行程です。

※ 16:00~17:00 閉会セレモニー(山岳館) 修了式(研修修了証書授与、限定記念品贈呈)

\* 終了後の白鳳会館での入浴は無料です。